

関東地域版

木材研究委員会を新設

木材の良さを科学的に証明

東京木材問屋協同組合

東京木材問屋協同組合（東木協、東京都、善助昭理事長）は、木材研究委員会を新設し、委員長には飯島義雄氏（丸栄木材社長）が選ばれた。木の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。

昨年は新型コロナウイルスの拡大に伴い、木材需要が大幅に落ち、木材研究委員会の活動が停滞した。今年度からは委員会として独立して活動し、木の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。

委員会は、飯島義雄氏（丸栄木材社長）が委員長に選ばれた。委員会は、木の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。

委員会のメンバーは、飯島義雄氏（丸栄木材社長）、山田信一（常務理事）、木島裕（山岡木業）、井関副委員長（長谷川泰治）、本芳太郎（堀本銘木）、河合信一郎（協和木材）、高橋（高橋木材）、網中（網中木材）の各氏、計12名で構成される。委員会は、木の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。

理事長 担出委員 豊勝（網中木材）、齋木田信一（常務理事）、委員 裕子（堀川商店）、山田信一（山岡木業）、飯島義雄（丸栄木材）、井関副委員長（長谷川泰治）、本芳太郎（堀本銘木）、河合信一郎（協和木材）、高橋（高橋木材）、網中（網中木材）の各氏、計12名で構成される。委員会は、木の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。



14日開催の委員会がわたり

22年間メールニュース発信 産学官民ネットワーク作る

持続可能な森林フォーラム 藤原敬代表

持続可能な森林フォーラム（東京）の藤原敬代表は、22年間メールニュースを発信し、産学官民ネットワークを作ってきた。このネットワークは、木材の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。

藤原代表は、22年間メールニュースを発信し、産学官民ネットワークを作ってきた。このネットワークは、木材の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。

藤原代表は、22年間メールニュースを発信し、産学官民ネットワークを作ってきた。このネットワークは、木材の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。



「私は論文を書き上げるプロの研究者ではなく、流通業者として、産学官民のネットワークを作り上げ、木の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。」と語る。

藤原代表は、22年間メールニュースを発信し、産学官民ネットワークを作ってきた。このネットワークは、木材の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。

3月には委員会のコミュニケーション向上のための、絵本作家や行政を巻き込んだSDGs会議を開催し、森林問題などについて議論を深めた。

「私は論文を書き上げるプロの研究者ではなく、流通業者として、産学官民のネットワークを作り上げ、木の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。」と語る。

藤原代表は、22年間メールニュースを発信し、産学官民ネットワークを作ってきた。このネットワークは、木材の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。